

蕪崎市中小企業・小規模事業者振興協議会 会議録（要旨）

【会議の概要】

1 会議の名称	令和5年度 蕪崎市中小企業・小規模事業者振興協議会
2 日時	令和6年3月15日（金） 午前10時00分～午前11時50分
3 場所	蕪崎市役所 4階 403会議室
4 議題 （審議事項）	(1) 令和5年度事業の実施状況について (2) 意見交換 (3) その他
5 出席委員（欠席）	岩下和彦会長、望月重一委員、古屋祐治委員、佐々木啓二委員、野田ひろみ委員、千葉健司副会長、上野恵委員、松本恵子委員、内藤一穂委員 計9名 (欠席委員：山本保人委員)
6 会議の公開区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴人の数	1人
8 出席職員	産業観光課長 結城、産業観光課商工観光担当 古屋、蕪崎市商工会 石川

【協議内容等】

	発 言 者	内 容 (要 旨)
協 議 内 容 及 び 決 定 事 項	事務局	【開会】 開会の宣言。次第に則り協議会を進行
	事務局	【委嘱状の交付】 ・委員の紹介
	事務局	【会長挨拶】 ・岩下会長挨拶
	岩下会長	【会長挨拶】 ・今回で審議会は8回目の開催となる。 ・事業の成果の検証と実施が必要である。 ・経済の地域内循環が重要である。 ・蕪崎市の事業者の多くは、製造業である。 ・各委員のそれぞれの立場にて活発な意見交換を期待する。
	事務局	【議事】 次第4の議事に移りたいと思います。進行は協議会規則の規定により会長にお願い します。
	議長	【議事】 令和5年度事業の実施状況について、事務局より説明をお願いします。
	事務局	【説明】 令和5年度事業の実施状況について説明。
	商工会石川課長	【説明】 令和5年度商工会事業について説明。
	議長	【議事】 以上、質問あればお願いします。
	委員	空き店舗ツアーが盛況だったと伺っている。その後の起業につながったか。参加者からは どのような意見があったか。
	商工会石川	41名の参加者のうち半分が県内、半分が県外であった。4, 5名の方から相談があった。 数年前の開催時の参加者の起業が数件あったので、今後つながるのではないかと。

	<p>参加者からは、行政、民間、商工会の3者の協力体制がとられているため、安心感があるとの意見をもらった。</p>
委員	<p>コロナ前の開催時は、30名程度の参加があった。その後3年間で、参加者のうちパイコヒー、ドーター、セイオットが起業していった。</p> <p>ツアー参加者以外で、全体の起業の相談や空き店舗となった店舗への別の起業の相談もあり、まだ数値に表れていないが、成果がでている。</p>
委員	<p>商工会の会員の廃業される件数のトレンドと理由を教えてください。</p>
商工会石川	<p>R4年度34件の廃業で、今年度もこの程度ではないか。</p> <p>廃業の原因は、高齢による廃業が圧倒的に多い。</p>
委員	<p>にらさきスターショッププロデュースの3事業所はどこか。</p>
商工会石川	<p>タナベ、ニューウェル、イチカツの3事業所です。</p>
委員	<p>【小規模事業者（パン屋）からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園とパンを営業していて、持続化補助金を申請している。 ・スタッフは、4人から10人に増え、社長以外全員女性である。 ・子育てを終えたスタッフが時短ではなく、フルタイムを希望し、離職してしまう懸念がある。 ・そのため、事業を拡大することで現在のスタッフを正社員として雇用したいと考えている。 ・経営努力として、店舗を構えてお客さんを待っているだけでは厳しいため、積極的に営業活動を行っている。 ・葦崎をPRできるよう社員教育のために出前塾を利用した。
委員	<p>【中小企業：市主要企業からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半導体製造装置を製造しており、2030年まで上振れると言われている。 ・女性と高齢者の募集採用については、良い方向にある。 ・高齢者と呼ばずにベテランと呼んでいる。 ・経団連や日本生産性本部などに依頼して、国が行っているプロフェッショナル人材事業は紹介経費がかかり、失敗するリスクもある。 ・Iターンリターンを希望する方と直接マッチングできるプラットフォームを市や県などの自治体で構築してもらえるようにしてもらいたい。 ・6割は中小に対応でき、4割は、大企業病が抜けず活躍が期待できない。 ・女性の割合は、53%で、優秀な女性の皆さんが相当数葦崎に眠っている。 ・現場は、フルタイムで勤務できる若い男性を希望している。 ・子育てをしながら、キャリアを積んでいけるような環境が必要。

	<ul style="list-style-type: none"> ・午前4時間の方と午後3時間の方を足せば、7時間勤務となり、フルタイムの8時間には満たないが、会社としては、御の字である。
委員	<p>【国：公共職業安定所からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6.1の管内における有効求人倍率は、1.26となっている。 ・1倍を上回ると、職を選べ、就職がしやすく、下回ると就職が難しくなる。 ・県内1.28、全国1.27となっており、管内と同程度である。 ・管内のR6.1に1.26と増加したのは、官公庁の会計年度任用職員の募集の影響である。 ・管内においては、製造業がメインで次いで医療福祉である。 ・官公庁を除くと7割以上が中小零細企業となっている。 ・一般労働市場の有効求職者数は、前年同月比で微増となっている。ただし、年間累計だとH26をピークに減少傾向にある。 ・月間有効求人数は、R4.12以降対前年同月比でマイナスとなっている。年間累計だとH23以降対前年比で増加している傾向にある。 ・65歳以上の有効求職者数は、増加傾向にある。 ・職種別にみると、1倍を下回っているのは、事務、農林漁業、運搬・清掃で、一方1倍を上回っているのは、保安、建設・採掘である。生産工程の職業は、R6.1で1.13であるが、前年度は、1.8で求人倍率が大きく下がった。 ・国の制度では、65歳までの雇用が義務付けられており、70歳までは任意である。 ・女性活躍認定制度「えるぼし」「くるみん」を推進している。
委員	<p>【関係機関（教育関係）からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生を対象に職業体験事業を実施している。 ・事業はNPO法人河原部社が受託している。 ・R5東西中同日で行ったため、普段とは違う仲間と一緒に活動ができ、中学生にとって、大きな刺激になった。 ・事業者の担当者にとっても、自分の仕事を客観的に捉えることができ、良かったとの声があった。 ・起業した方のところでも体験を行った。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・高校入試において、葦崎工業高校に39人も欠員がでていて、製造業として非常に悩ましい。 ・県に募集定員を減らさないように、業界で働きかけ、定員は減らなかったが、欠員が出たしまったのが、悩ましい。 ・オープンファクトリーに中学生が参加していない。 ・葦崎に製造業が多くある認識が市民になく、朝夕渋滞して困るという認識である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人に地元にもこういった企業があることを知ってもらい、2番手3番手ではなく、1番手として選んでもらいたい。 ・工業高校出身者を雇用したい企業は多い。
委員	<p>【小規模事業者（建築）からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材高騰に加え、高齢化により職人が不足している。 ・住宅が値上がりして、新築離れしている。 ・大手ハウスメーカーが安売りを行って、工務店の仕事がなくなっている。 ・リノベーションは伸びている。 ・河口湖駅前にあるJTBのカフェがある。 ・河口湖や富士吉田に外国人観光客であふれていて、バブルが起きている。 ・韭崎は、インバウンドが取り込めていないので、もったいないと感じている。 ・北杜市においても、移住者や別荘の建築バブルが起きている、北杜市内の工務店が忙しすぎて、どこも受けてもらえないとのこと。 ・韭崎での起業は、飲食店が増えている。商店街版のシェフズバルの開催や空き店舗ツアーを無料ではなく、有料で行うなど、移住起業に焦点を絞って、観光客を誘致できないか。 ・アメリカヤのネーミングを利用して、外国人を取り込めるイベントを行いたいと考えている。
委員	<p>【小規模事業者（小売）からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めての確定申告を商工会にサポートを受けずに行うことができた。
委員	<p>【行政からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回開催の会議であるが、ここで出た意見を施策に反映している。 ・今年度は、甲府市を中心とした10市町で連携し、アイメッセで企業説明会を実施した。 ・ご提案があったプラットフォームについても、県央ネットの広域連携で提案できるか検討する。 ・女性活躍認定制度取得企業を増やすため、申請の事務手続きをサポートする社会保険労務士の費用を助成する制度を創設した。 ・駐車場の問題解決策として、実施したまちなか駐車場無料チケット配付事業の結果を事務局から報告してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットを半額助成で今後実施した場合に参加を希望する事業者は2つであった。 ・事業者からの意見は、「近くに自分たちで借りているため不要である。」「文化村や近くの寺を利用している」などであった。 ・この結果から、駐車場の利用チケット配付は、効果がなかったということで、本事業は行わず、別の方法を検討します。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・富士吉田市では、駐車場を目的地近くに設置したことで、目的地のみを訪れ、商店街へは行かずに帰ってしまう。 ・今回、駅の近くに駐車場の用意を考えたが、少し離れた場所に用意し、歩いてもらう仕掛けをつくる検討をしたらどうか。 ・例えば、郵便局近くの市有地や文化村などを駐車場としたらどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便局近くの土地は、住宅施策として、分譲住宅としてトヨタホームへ売却したところである。 ・文化村の駐車場は、市でも補助金を出していて、広く利用できるようにしているが、利用が芳しくない。 ・富士吉田市の副市長と意見交換をする機会があり、その中でインバウンドのオーバーツーリズムでトイレやゴミの問題などの解決が難しい問題が多くて困っているとのこと。表に出していない、悪影響の部分もよく考えてやらないと失敗するようなので、その点も考えていきたい。 ・イベントに対して、市制 70 周年で、若い方や民間の方が行うイベントに対して、市で補助金を交付する事業もあるので、ぜひ活用してもらいたい。 ・今後は、紙ではなくインスタなどの SNS を活用していく必要がある。 ・高齢者もスマホを操作できるようにするために、中央公民館事業で操作方法を指導できる人を育成する事業を行っている。 ・民間の皆さんの意見、アイデアをお聞きして、制度化していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホサポーター養成講座を 3/6 に実施し、11 名を養成。 ・スマホ操作の講習会も実施し、延べ 270 人ほど参加した。
委員	<p>【金融機関から報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋菓子店がオープンし、おしゃれな店舗で、行列ができていて、韮崎市が目指しているまちのにぎわいの創出が図られていて、喜ばしく感じる。 ・店主は移住者の方で、開業に際しては、移住相談員や商工会、アトリエイロハや金融機関が協力してのオープンとなった。 ・金融面だけではなく、県内のみならず、東京にも支店があるので、あらゆる情報を駆使して、販路開拓、ビジネスマッチングなど多方面の支援を行える体制を整えている。 ・アフターコロナの状況について、取引先のお客さんは現時点でコロナの影響による倒産や業況不振は見受けられない。元本や利払いの返済が開始されている。引き続き、事業者へのヒアリングにより、情報収集を行い、迅速に対応できるよう心掛けている。 ・取引先の社長へのヒアリングにおいて、①労働力の不足、人材確保 ②原材料価格の高騰、③賃上げの3つが心配事、興味のあることであった。

議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韮崎の地域資源は、今までは山、川などの自然や歴史と捉えていたが、アメリカやリノベーションした店やその関係者、地域おこし協力隊など全部が地域資源である。 ・ 目新しいことをしなくてよくて、子供たちの通学風景や田園風景、そのものが地域資源であり、それをつなげると、外国人にとって魅力のあるものになる。 ・ 視点を変えて、地域の活性化を図っていく必要がある。 ・ 連携をすることがとても大切であり、連携の仕方が課題である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ VF 甲府の佐久間さんと話をした際に、国立競技場に他チームのサポーターも含め、1万人も集まったのかを検証していて、新宿駅での壁一面の広告や都内でラッピングトラックを走らせた効果がでたのではないかと伺った。 ・ JRと協働して、電車で韮崎駅まで呼び込むのはどうか、費用はかかるが、テストする価値はあるのではないか。 ・ 北杜市でベトナム人の臨時で雇われている方が、SNSでスキー場を発信したところ、北杜にスキーをしにきた。 ・ 東南アジアの方たちを雇って、外国人をターゲットにした配信を行い、来てもらえればこれだけおもしろいというものをアピールしたらどうか。 ・ ファクトリーツアーを行い、日本の地方のものづくりは魅力を発信できるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都内から韮崎をプロデュースしたいと大学と地域をつなぐ企業と中央線沿いで地域と企業をつなぐ2社から声がかかっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画から学生を入れると、学生を呼び込もうとするので、学生をターゲットにするには良いのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韮崎工業の良さが知られてないため、公園とパンでは、工業高校生との交流を行っている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業高校の定員を減らさないように商工会連合会を通じて、働きかけた経緯がある。 ・ 定員が確保され、安心していた。 ・ 工業高校においても、子供たちに体験させるイベントを行っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年、商工会から要望をいただき、秋のイベントもまちなかへ戻して実施する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾やベトナムのインフルエンサーに依頼して、情報発信を行うことで成果があがっているとこもある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大企業の女性の働き方は、イメージできるけど、地元の企業の女性の働き方がイメージできないとの声を若い女性から聞いた。自分がどんな働き方ができるのか、結婚して出産して働くイメージが湧かない。 ・ 子育てしながら、働いて活躍している女性の社員のロールモデルを紹介したら、良いのではないか。

	議長	<ul style="list-style-type: none">・うちの会社でも女性の社員に頑張ってもらっている。育休も100%取得し、復職している。最長小学校3年生まで時短勤務が可能である。・その他ですが、事務局から何かありますか。ないようであれば、議事を終了します。
	事務局	【閉会】